



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

エジプト・パレスチナ：ガザ政府のハニーヤ首相のエジプト訪問 (29日付クドウス紙)

パレスチナの29日付クドウス紙によれば、26日にカイロで行われたガザ政府のハニーヤ首相とエジプトのムルシー大統領との会談に関し、同首相は次のように発言した。

1. ムルシー大統領との間で、ガザの状況改善に向け、以下の合意に至った。
  - (1) ラファハ検問所の開業時間を1日12時間に延長。これにより、一日1,500人のガザ住民のエジプトへの渡航と、エジプト側からガザへ入域する全てのパレスチナ人の受け入れが可能となる。
  - (2) エジプトによる、ガザ出身パレスチナ人に対する「国外退去措置 [注：カイロ空港から出入国するガザのパレスチナ人(40歳以下)にエジプト国内での滞在を認めない措置]」の終了。
  - (3) ガザの電力危機に関し、ガザ地区唯一の発電所稼働に必要な燃料の供給を増加させる。カタール提供の燃料を積んだトラックのガザ入域を、1日6台から10台に増加する。(将来的には) エジプトからの電力供給を22メガワットから30メガワットに増加させ、ガザの電力会社向けのガス・パイプラインを敷設し、中東諸国8カ国による電力網連結プロジェクト(注：エジプト、リビア、ヨルダン、シリア、レバノン、イラク、パレスチナ、トルコの電力網をつなげようというもの。パレスチナは2008年に同プロジェクトに参加)を実行していく。
2. ハマースによるガザ制圧以降閉鎖しているエジプト領事館の業務再開をエジプト側に提案した。
3. ガザ政府は、エジプトの主権と出入国に関する規則を尊重し、シナイ半島やその他の地域における混乱に加担する意思はないと強調した。
4. ガザ地区はパレスチナの一部であり、ガザに独立した国家を創設する意思はないと強調した。